



公明・健政会

県議会ニュースレター いぶき信一



発行者

県議会議員 伊吹 信一
青森県議会 公明・健政会

TEL/FAX.017-722-6148

www.ibukista.com

@ibuki_shinichi

@shinichi.ibuki9

本州最北のターミナルは、 北海道と結ぶ大動脈の物流拠点港



地方創生の取組みについて一般質問 第238回青森県議会定例会

暮らしの中から“地方創生”

国は地方活性化にむけ新たに「地方創生」制度を創設し、地方自治体の取組を促しております。2030年度にむけ直近の5カ年で、人口減少社会克服への具体化に着手することになります。

定住人口増加の鍵は「職」の創出にあります。地域のもつ魅力の再発見が「地方創生」にむけた、地域資源のブランド化となり、「職」の創

出を通じた地域活性化に繋がると信じます。今回の議会質問では「道」に着眼しました。現在の街並みを形作る数多くの陸路が、「歴史街道」として今に伝えられ、海路による国家物流の拠点港湾として賑わいをみせた「北前船寄港地」は、三方を海に囲まれた青森県の優位性を県内市町村の歴史に留めています。

地域資源のブランド化にけた県の支援策や、県内定住人口を図る支援、がん対策促進、ひきこもり当事者の自立支援や家族に寄り添う支援対策について等々、提言を交え質問しました。

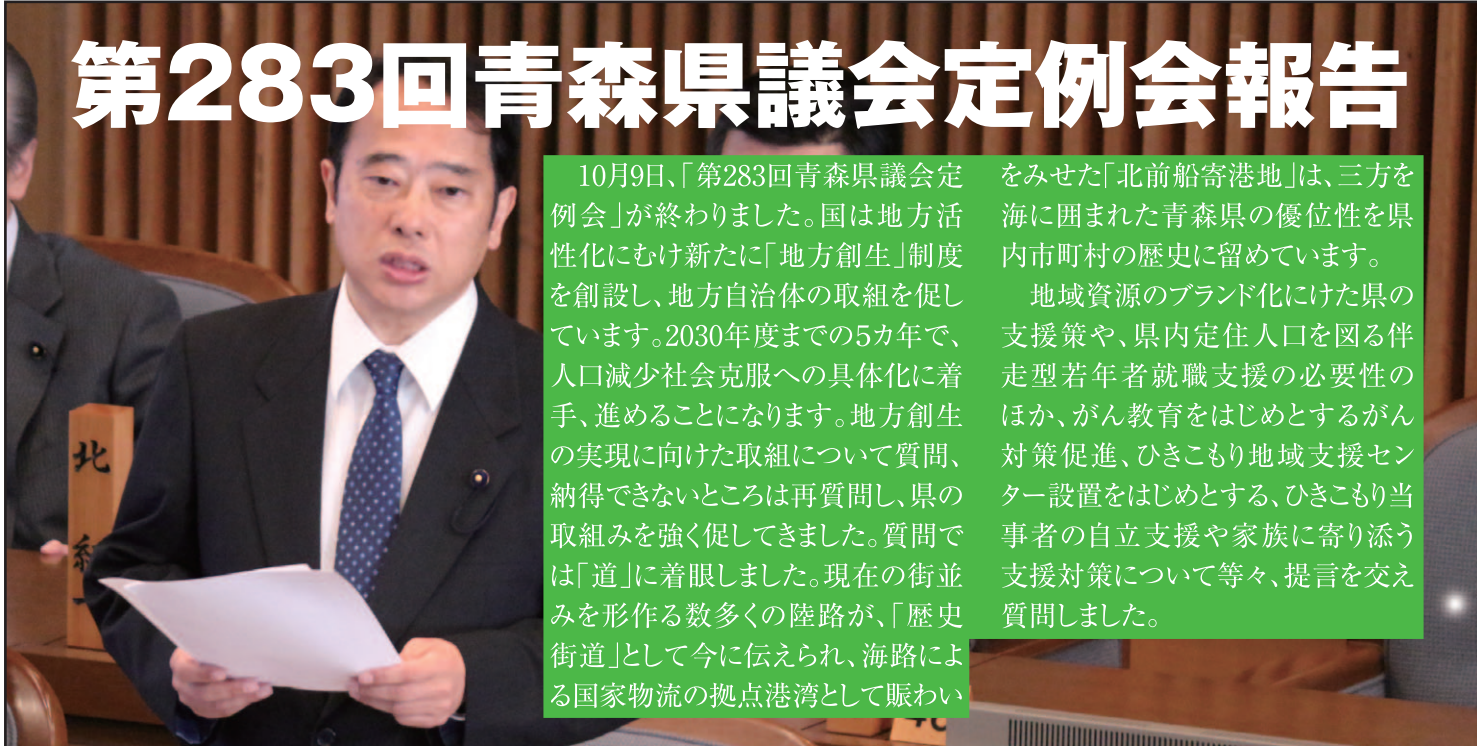
平成27年12月
青森県議会議員 伊吹信一

詳しくは青森県議会ホームページの以下のアドレスにアクセスし録画映像をご覧ください。幸いです。

<http://www.aomori-pref.stream.jfit.co.jp/>



第283回青森県議会定例会報告



10月9日、「第283回青森県議会定例会」が終わりました。国は地方活性化にむけ新たに「地方創生」制度を創設し、地方自治体の取組を促しています。2030年度までの5か年で、人口減少社会克服への具体化に着手、進めることになります。地方創生の実現に向けた取組について質問、納得できないところは再質問し、県の取組を強く促してきました。質問では「道」に着眼しました。現在の街並みを形作る数多くの陸路が、「歴史街道」として今に伝えられ、海路による国家物流の拠点港湾として賑わい

をみせた「北前船寄港地」は、三方を海に囲まれた青森県の優位性を県内市町村の歴史に留めています。

地域資源のブランド化にけた県の支援策や、県内定住人口を図る伴走型若年者就職支援の必要性のほか、がん教育をはじめとするがん対策促進、ひきこもり地域支援センター設置をはじめとする、ひきこもり当事者の自立支援や家族に寄り添う支援対策について等々、提言を交え質問しました。

雇用創出について質問

経済基盤の弱い地方は、国の施策に呼応した雇用創出の取組が重要です。国は企業の本社機能の地方移転を促しており、青森県としても積極的に働きかけるべきと考えています。また、若い人たちの就職支援と県内定着に向けて、政労使が課題解決のための共通認識を持つことが重要で、政労使会議で得られた意見を国の施策に反映させられるように国に働き掛けていくべきと考えて、県の見解を質しました。

地域資源の活用について質問

- 1.「あおり藍」のブランド化を進めるべきではないか。
- 2.北前船や歴史街道などの地域資源を活用したらよいのでは・・・
- 3.豪雪を逆手にとって、雪の利活用を促進すべき!!

県知事 「あおり藍」の一層のブランド化に向け、青森県中小企業団体中央会等の関係機関と連携しながら、専門家派遣などを通じ、生産者や企業のニーズに応じた支援を積極的に進めていきたいと考えています。

企画政策部長 地方創生を実現していくためにも、北前船や歴史街道といった、その土地の歴史や文化を感じることができる地域資源を、地域がいかに掘り起こし、磨きあげていくかが重要であり、そのことが地域住民の誇りに繋がるとともに、観光振興をはじめとした地域の活性化に資するものと考えています。

青森港の国際観光港湾化を目指すべき、と質問!!

- 1.クルーズ船寄港受入体制の整備や賑わいづくりが必要。
- 2.青森港環境緑地は、利用されず老朽化している施設もあり、環境整備と有効活用していくべきだ。

県知事 外国クルーズ船の一層の寄港増加を目指し、米国商社に加え、新たにヨーロッパ船社をターゲットとした青森港の魅力発信を進めるほか、国内他港と連携を密にし、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催効果の獲得も見据えた、グローバルな視点での誘致活動を進めていきます。

県土整備部長 沖館地区の環境緑地については、地元町内会の(屋外プールの撤去及び環境整備に関する)要望を踏まえたうえで、環境緑地を含めた青森港全体の環境整備に努めまいります。



大型クルーズ船飛鳥II

ICT推進を医療面から質問

- 1. ICTの利活用は若い人たちの意見を聞いて!!
- 2. 救急搬送や医療の充実はICTを活用して。
- 3. 医療機関とおしの患者情報の共有を進めるため、あおりメディカルネットを、情報の双方向性を高めながら普及していくべきだ。

ICTを活用した子どもの安全確保について

県警察本部が運用しているメールマガジン「青い森のセーフティーネット」を学校関係者に周知させることが重要と考え質問しました。

「青い森のセーフティーネット」は、登録手続きや内容について改良を加え、より使い勝手の良いツールになりました。子どもたちの安全確保の為、事件・事故情報発信ツールとして大いに役立てていただきたいと思います。

「ひきこもり地域支援センター」設置すべきと質問!

再質問でも、長期化や潜在化を考慮し対象年齢を限定せず、民生委員や児童委員等、地域の実情を知る方々の協力を得てひきこもりの実態調査をおこなうべきと強く迫りました。

これまで設置が見送られてきた「ひきこもり地域支援センター」設置の意向を、県健康福祉部長が初めて明らかにしました。

ひきこもり親の会「青森さくらの会」に参加の皆さまから、「ようやく光が見えてきました」との言葉をいただきました。本人と家族に「寄り添う」センターとなるよう、全力を尽くしたいと思います。

本県のがん対策について質問しました!

県知事や健康福祉部長、病院事業管理者、県教育長等と何度もやりとりした内容は内容量が多くこのレターに掲載することは出来ませんが、がん対策に関する県側の対応については質問を通して取り組みの状況を明らかにし、さらに緊急、かつ重点的な取組につながるものと考えています。

以下には質問のみ掲載します。

- 1. 県内のがん診療連携拠点病院における緩和ケア研修受講状況を伺いたい。
- 2. 県立中央病院におけるがん患者の痛みに関する「スクリーニング」について、これまでの成果と、がん診療連携拠点病院に普及させるための取組について伺いたい。
- 3. がん教育とがん教育を進めるうえで協議の場を設置する等、関係者間の連携が重要だと考えて、県の取組状況を質問しました。

再質問 個人ががん検診の内容を選択できるよう、がん情報検索サイト「青森県がん情報サービス」等で、医療機関別の治療内容や検診内容について情報提供すべきと考えますが、県の見解を伺います。

再質問 インターネットで検診が予約できたり、希望する医療機関で検診を受けられる福井県方式の取組は本県でも必要と考えますが、県の見解を伺います。

スポーツ振興の組織体制について質問

総務部長 スポーツを通じた地域活性化を図っていくためには、教育委員会及び知事部局のそれぞれにおいて、連携を図りながら取組を進めつつ、スポーツを通じた地域活性化の組織のあり方について、他県の対応等についても十分留意し、適切に対処していきたいと考えています。

再質問 新しい組織体制で取組を進めるべきと考えるが知事の見解を伺いたい。

県知事 スポーツを通じた地域活性化をしっかりと考え、組織体制については、他県の対応等も十分に留意し、適切な対応がどうあるべきか、考える時期と考えております。

うとう心臓友の会創立30周年

青森県立中央病院で心臓疾患の治療をうけた患者で組織する「うとう心臓友の会(鶴賀晃会長)」の創立30周年記念式典が、6月30日に青森市内で開かれ、出席しました。最近の心臓手術についての講演もあり、大変有意義な式典でした。

記念式典に出席



青森港環境緑地整備を求め要望書提出

沖館北部町会連絡協議会(柿崎昭夫会長)の役員の皆さまとともに、東青地域県民局地域整備部青森港管理所を訪れ、大柳雅一所長に「青森港環境緑地整備を求める要望書」を提出しました。



青森港環境緑地整備要望

5月18日沖館川をきれいにする会の要望活動に参加

これまで要望していた遊歩道の整備がおこなわれることも明らかに!!

「沖館川をきれいにする会(菅原征一郎会長)」の役員の皆さまとともに青森県東青地域県民局地域整備部長を表敬し、プレジャーボートの騒音に悩まされている住民たちの声を取りまとめた資料も添付、県の迅速な対応を強く求めました。

沖館川をきれいにする会要望



オール青森で作った「あおり藍」

蓼藍(たदैい)を活用した産業創出に尽力している「あおり藍産業協同組合」を訪れ、吉田久幸代表理事より説明いただきました。津軽地方では17世紀半ばには100軒以上の藍染め業者がいたことが歴史資料に残されています。北前船で交易されていた蓼藍が、同組合の独自技術により「あおり藍

AOMORI BLUE」として現代に蘇りました。スペースシャトル「ディスカバリー」の船内服として採用されたことから一躍脚光を浴びました。県内企業との商品開発が期待できます。雇用創出の点からも、青森ブランドの確立を支援してまいりたいと思います。

あおり藍産業協同組合を視察



北海道新幹線にともなう巨額の財政負担

新たな制度創設を国に要望!

10月8日に開かれた「青森県議会新幹線・鉄道問題対策特別委員会」では、「JR貨物線路使用料を引き上げるべき」や「JR貨物の株主である国がJR貨物走行に伴う施設整備費や維持費を負担すべき」等々の率直な厳しい意見が会派を超え出されました。JR貨物は国が負担すべきです。青い森鉄道線運行に必要な施設・設備をJR貨物列車走行のために青森県が維持しなければならない現状は早急に見直されるべきです。

北海道新幹線建設に巨額の財政負担を強いられ、寝台特急列車廃止による4億円余の収入減という青森県の厳しい現状を打開するため、県執行部とともに国及び県選出国會議員を訪れ、新たな制度創設を国に要望することを決議しました。



北海道新幹線開業対策特別委員会において質問



新幹線・鉄道問題対策特別委員会の要望活動 藤田耕三鉄道局長

国の緊急被ばく医療ネットワーク化を推進

弘前大学が「高度被ばく医療支援センター」および「原子力災害医療・総合支援センター」に指定されました。今回の指定は、東京電力福島第一原子力発電所事故時の教訓を踏まえ、国の緊急被ばく医療体制の見直しを求め公明党が要望書を提出したことから、国が見直しを進めてきたことによるものです。今回の指定で弘前大学、福島県立医大、広島大学、長崎大学は

今後、国の被ばく医療ネットワーク構築強化の中心的役割を担うこととなります。弘前大学(佐藤敬学長)からの要望書提出を踏まえ、継

続して連携し、ネットワーク化の必要性を働きかけてきた私(伊吹)にとって感慨深いものがあります。



国立大学法人弘前大学(佐藤敬学長)より要望書を受ける

幼保一元化の取り組みを視察



幼保一元化の取り組みを視察 三沢第一幼稚園

子育て支援プレミアム商品券発行について県から聞き取り



地区防災計画DIGを体験

平成26年4月1日に施行された国の「地区防災計画制度」を学ぶため、町内図を使用した「地区防災計画DIG」の手法を体験、日頃からの「自助・共助」への備えが、災害時の効果的な公助に繋がります。



地区防災計画DIGを体験

未来の有権者たちのために

ご支援戴いている方の小学校1年生のお孫さんが、私の似顔絵を描いて大事に貼ってくれたそうです。その絵を見た方が預かり、届けてくれました。「額の広がり」と3頭身が見事に似ています。とても嬉しいプレゼントをありがとうございます。

未来の有権者であるこの子どもたちに夢と希望そして安心を届けられるよう、これからも誠心誠意努めてまいりたいと思います。



小学校1年生からの似顔絵のプレゼント

LINE はじめました

日常の政治活動や議会報告・地域実績を発信していきます。

- ①IDを検索する
@hmw5037e
- ②RQコードを読み取り
友だちに追加



伊吹とLINEでつながりましょう!